

香港デモ擁護で処分 中国・湖北大、教授の党籍剥奪

毎日新聞 2020年6月22日 東京朝刊



梁艶萍教授＝湖北大学ホームページより

世界で最初に新型コロナウイルスの感染爆発が起きた中国湖北省武漢市の様子を自らの体験をもとに描き、国内外で大きな反響を呼んだ「武漢日記」作者の女性作家、方方さんや香港のデモを擁護した湖北大学（同市）の梁艶萍（りょうえんへい）教授が20日、大学当局から共産党籍剥奪などの処分を受けた。方方さんは同日、中国版ツイッター「微博」で、この処分を批判した。

香港メディアによると、梁教授は、方方さんをインターネット上で批判した書き込みについて「恥の極みで、目的のために手段を選ばないやり方は常道ではない」と述べていた。

大学側はこうした発言を問題視。学内の会議で「日本や香港に関しても誤った言論活動をしており、共産党の政治規律に嚴重に違反する。社会に極めて良くない影響を与えた」として、党籍剥奪や学生を指導する資格の取り消しを決めた。

方方さんは「湖北大は中国の大学、湖北省に対して醜態をさらした。文化大革命の時、冤罪（えんざい）とされた人の多くは後に名誉回復を果たした。きっと名誉回復の日が来る」と微博で梁教授を擁護。「このような卑劣な手段で人を攻撃するなら、改革の継続は不可能で、中国に未来はない」と当局を批判した。

【上海・工藤哲】